

## 【薬剤費の節約について】

## ジェネリック医薬品の活用をお願いします

少子高齢化社会の到来に伴い、社会保障・医療制度改革の必要性が訴えられている中、国民全体での医療費の抑制が強く求められています。

そこで、誰もができる身近な取組みのひとつとして、ジェネリック医薬品の活用が考えられます。(薬剤費は医療費全体のおよそ2割を占めています)

## ジェネリック医薬品のメリット

ジェネリック医薬品\*は「後発医薬品」ともいいます。有効性・安全性は実証されているため、新たな開発経費を投資する必要がなく、廉価で製造供給できるというメリットがあります。

※最初に医薬品を開発した製薬会社の有効成分に関わる物質特許が切れたものを、他の製薬会社が製造供給する医薬品のこと。

## 日本の活用状況

ジェネリック医薬品の活用については、先進国の中で既に普及率6割を超えている欧米諸国に比べ、日本の取組が遅れているといわれています。<sup>\*</sup>現在の日本の普及率は22.8%です。

※平成23年9月厚生労働省薬価調査

## 薬剤費を大幅に節約

継続して一定の薬剤を必要とする組合員や被扶養者の方が、全く同じ有効成分のジェネリック医薬品に切り替えるとすれば、年間における薬剤費の節約効果は相当なものになります。

## 事例 実際に、組合員Aさんの被扶養者であるお母様の例で試算してみました。

リウマチのため、毎月一定の薬剤費がかかっていますが、一部をジェネリック医薬品に切り替えることが可能だと判りました。<sup>\*</sup>

医薬品の中には、5割も単価の下がるものがありました。

「平成25年8月調剤分」の報酬明細書(調剤レセプト)で試算してみたところ、全体で**7,494円**薬剤費が減額となりました。現在、お母様は3割の自己負担をしておられますので、この月の一部負担金(お母様負担分)から、約**2,250円**が負担軽減される計算になります。仮に1年間であれば、

**2,250円 × 12月 = 27,000円** の負担軽減ができる計算となりました。

チリも積もれば…、  
家計への足しになるかも  
知れませんか。

※「平成25年8月調剤分」のうち、以下のものでジェネリック医薬品が使えると判りました。

アルファロールカプセル	0.5μg	1カプセル	▽34.5円×42=▽1,449円
バリエット錠	10mg	1錠	▽57円×42=▽2,394円
メリストロン錠	6mg	2錠	▽2.5円×42=▽105円
プログラフカプセル	1mg	1カプセル	▽8円×42=▽336円
セルタッチパップ70	10cm×14cm	60枚	▽10円×60=▽600円
リウマトレッタスカプセル	2mg	3カプセル	▽145円×3×6=▽2,610円
合計			▽7,494円



## 「おくすり手帳」をご活用ください



「おくすり手帳」は、今まで服用されている薬剤の情報が記載されていますので、**医療機関等への確かな情報**が伝わります。

組合員や被扶養者の方が複数の医療機関を受診される際は、より**効率的な治療**を受けることができます。また、薬剤の重複処方や飲み合わせによる副作用の防止にも役立ちます。

「おくすり手帳」は調剤薬局に頼むと配付してもらえます。

以後、調剤をしてもらう時に薬局窓口で提示をし、記録してもらうことをお勧めします。

## Q 安全性や効果は？

「ジェネリック医薬品」って、  
安全性とか、効果とかに  
問題はないのですか？



## A 問題ありません。

「ジェネリック医薬品」は、どれだけの早さで、どれだけの量の成分が血液中に入ってくるかを調べる**生物学的同等性試験**において、**新薬と同等**であることが**確認されている薬**です。(その他、製剤規格試験や安定性試験等の国の審査を受けています)

したがって、医薬品としての**効果や安全性、品質**については、**国の審査で認められております**ので、**問題はありません**。



医師の処方せんに「変更不可」の指示がある場合は、ジェネリック医薬品へ変更できない場合があります。受診をする際、まずは一度、**掛かりつけの医師に「ジェネリック医薬品での処方**は可能ですか？」と**相談してみ**てはいかがでしょうか。



問合せ先 給付貸付課短期給付係 | **03-5320-6827**